
月の語り部

夢見大

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

月の語り部

【Nコード】

N5165Y

【作者名】

夢見大

【あらすじ】

大きな秘密を抱え五歳の息子と暮らす月香（主人公）。秘密を打ち明けた夫・陽雅に先立たれて三年。

五歳になる息子・優斗は、亡き夫と同じ夢を持ち始める。困惑する月香だが、どうすることもできないまま時は過ぎていく。

月香の秘密を巡る、全編関西弁の笑いあり涙ありのファンタジー。

プロローグ

「ねえ、お月さまってなんであんなにきれいなん？」

五歳になる息子が体を揺らしながら、聞いてきた。それに私は、ゆつくりと笑いかけてこう答えた。

「優斗に褒めてもらおと思て、きれいにおめかししてんねん。せやから優斗、お月さまにきれいやなっていっぱい言っただてな」

「うん！わかった。僕、いつかお月さまのどこに行って、直接きれいですって言うてみたいな」

私は「そうか」と言って、息子の頭を撫でてあげた。嬉しそうに笑っている。

「お母ちゃん、お休み」

「お休み」

優斗は階段をばたばたと音を立てて上がっていった。私は一人になって、リビングのソファに深く座り、ゆつくりと目を閉じた。すーっと、一粒の涙が頬を伝った。

「これも遺伝なんかな。なあ、陽雅……」

私はソファから立ちあがって、サイドボードに置いてある亡き夫の写真を眺めた。

「陽雅、ごめんな。うちと結婚せんかったら、あないなことにならんですんだのに」

写真の夫は宇宙服を着て微笑んだままだった。こんなことを言う私を怒るでもなく、ただ表情を変えずにそのままだった。

「悲しいな……。うちももう寝よ」

私はリビングの電気を消して、二階に上がった。私の部屋は優斗の部屋の隣にあった。

部屋に入ると窓が開いて、カーテンが風に揺れていた。カーテンの揺れている隙間から見えるお月さまは、優斗の言うとおり本当にきれいだった。

「お母ちゃん、お父ちゃん、お休み」

そう言いながら、窓を閉めた。

ベッドに横たわりながら、ここにはいない陽雅に話しかけた。

「陽雅、向こうはええとこなん？あれから三年経つけど、うち全然あかんわ。一人になると、いっつも泣いてんねん。もっかいあんたに会いたいわ…。お休み」

私は瞳に涙を溜めて眠りについた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5165y/>

月の語り部

2011年11月17日21時24分発行